

[年度] 令和4年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 無加温ハウスで栽培可能な新規切り花 シンジー ‘ディープラベンダー’ の省力据置栽培技術の確立

[担当機関名] 農業試験場暖地園芸センター園芸部 [連絡先] 0738-23-4005

[専門分野] 花き

[分類] 普及

[背景・ねらい]

和歌山県のスターチス・シヌアータ（以下スターチス）の栽培面積は、無加温栽培が普及した結果、平成16年度の50haから平成30年度の73haまで増加しました。しかし生産量の増加により切り花価格が下落したため、生産農家の所得は減少傾向にあります。そこで、スターチスと同じ栽培条件で3年間植えたまま同じ株で収穫を続けることで株の除去、耕運および定植の時間が削減できる省力据置栽培をハイブリッドリモニウム シンジー（ペレジー×スターチス） ‘ディープラベンダー’（以下 ‘ディープラベンダー’）に適用し、暖地で夏季の切り花として利用することを想定した栽培管理方法と複数年据置栽培を行うための施肥管理を確立しました。

[研究の成果]

- 5月から9月に遮光率45%と65%の資材で遮光栽培した結果、定植1年目株では遮光率による収穫本数に違いはありませんでしたが、据置2年目株では65%より45%遮光で収穫本数が多くなりました(図1)。また、夏に無遮光で栽培すると枯死株が増加しました(データ省略)。このことから、 ‘ディープラベンダー’ の夏季の遮光は45%が適していると考えられます。
- ‘ディープラベンダー’ の据置栽培では、葉が過繁茂になるため刈込時期の検討を行いました。12月の刈込では抽苔してきた花茎も刈り込むことになり、また10月の刈込では、4月の収穫本数が増加しますが、夏季の収穫本数は11月の刈込より少なくなりました。このことから、 ‘ディープラベンダー’ は11月の刈込みが最適であると考えられます(図2)。

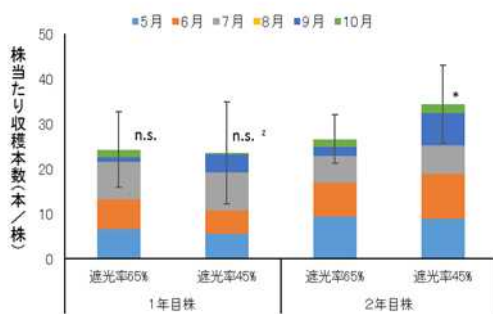


図1 遮光率の違いが夏季の収穫本数に及ぼす影響

調査期間 令和元年7月～令和元年10月30日
遮光期間 令和元年5月9日～9月25日
遮光資材 クールホワイト(遮光率45%、65%)
切り花本数: 切り花長50cm以上、切り花重20g以上を切り花本数
z: t検定により5%水準で有意差があるものを*、有意差がないものをn.s.とした

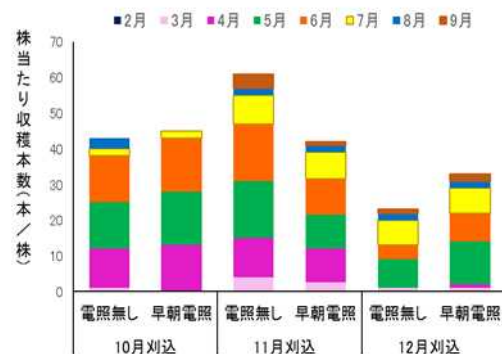


図2 刈込時期が収穫本数に及ぼす影響

刈込日 10月刈込 R2 10/21 11月 11/26、12月 12/18
刈込株数: 各2株

- ‘ディープラベンダー’ では、据置栽培年数が長くなると株当たりの収穫本数は減少しますが、早朝電照で長日条件にすると据置3年目株の収穫本数は3年目株と同程度になりました(図3)。このことから、 ‘ディープラベンダー’ の据置栽培では、日長延長や早朝延長などの長日条件の電照栽培が適していると考えられます。

(様式1)

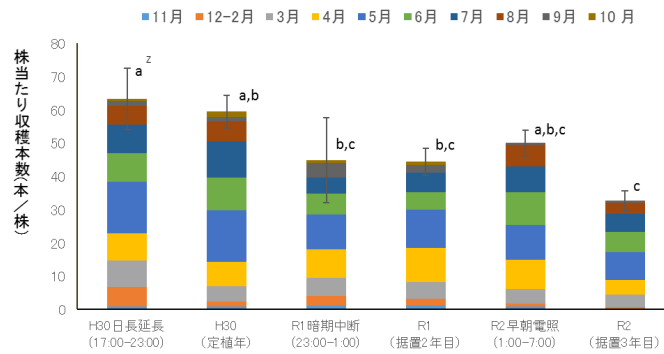


図3 据置栽培年数と電照が収穫本数に及ぼす影響

電照なし、根域制限なし、切り花本数：切り花長50cm以上、切り花重20g以上の本数
z：Tukeyの多重検定により5%水準で有意差があるものを異なる文字とした

4. 草勢抑制に根域制限 (φ150mm プラスチックに防根シートで穴を塞ぎ、苗を植えて鉢ごと定植) 栽培を行いました。収穫本数や切り花品質に影響はなかったため、'ディープラベンダー'の草勢抑制には刈込が適していると考えられます (データ省略)。
5. 'ディープラベンダー'では、基肥を0kg/10aは基肥窒素施用区と比べて収穫本数は有意に少なくなりました。しかし、基肥窒素量を3.5kg/10aより多くしても収穫本数に有意な差はなかったため、定植時の基肥施用量は3.5kg/10aが適当と考えられます (図5)。追肥については、定植2か月後から、0.65kg/10a/回液肥を月に1~2回施用し、2年目以降は窒素量1kg/10aの液肥を月に1~2回の施用が適しています (データ省略) (農業試験場)。

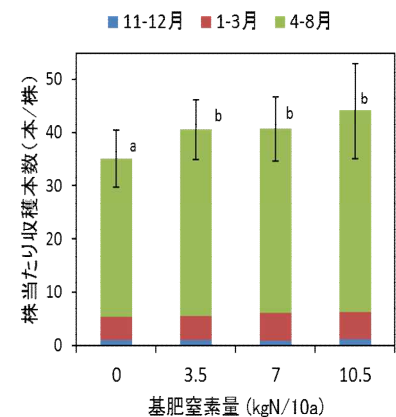


図5 基肥の窒素施用が収穫本数に及ぼす影響

各処理区に処理区名の基肥に加えて、0.65kgN/10aを月1~2回で施用しトータルで8.5kgN/10aの追肥を実施
z: Tukeyの多重検定の結果5%水準で有意差が認められたものを異なる文字で示した

[成果のポイントと活用]

1. 'ディープラベンダー'は5月から45%遮光すると据置2年目株の収穫本数は増加します。据置3年株では、長日電照すると2年目株と同程度の収穫が可能になりますが、無電照では収穫本数が減少するので、'ディープラベンダー'は長日電照を行うことで3年間の据置栽培が可能と考えられます。
2. 夏季(7月以降)の収穫本数を考えると'ディープラベンダー'の草勢抑制を兼ねた葉の刈込は11月が適しています。
3. 定植時に窒素施用量で基肥3.5kg/10a施用し、定植2か月後から液肥0.65kg/10aを月に1~2回施用する方法が、肥料の使用量が最も少ない効率的な施肥管理になります。
4. 'ディープラベンダー'の詳しい栽培方法、施肥管理マニュアルを https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/003/danchiengineicenter/003/danchiengineicenter/003_d/fil/sinzy_manual.pdf に掲載しています。

[その他]

予算区分：県単 (農林水産業競争力アップ技術開発事業)

研究期間：平成31年(令和元年)~令和3年

研究担当者：花田裕美

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可